

せんごくふねもけい
「千石舟模型」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（工芸品） 昭和 62 年 1 月 27 日
- 所 在 地 千曲市大字新山 1290 番地 1 宇留司原神社
- 所 有 者 宇留司原神社
- 概 要 木造
- 寸法 全長 253.5 cm、最大幅 83 cm、舟高 44 cm、艫高 60 cm、船首高 54 cm
- 時 代 江戸時代末期
- 公 開 社室のため非公開

かいこ
蚕の飼育の上で、脱皮を行うため食を休む「舟休み」というものがあります。蚕と舟とは伝説の上で係り合いがあり、養蚕の発展を願って舟を祀った信仰の一つです。

えいじよ やまがしちえもん
更級郡新山の榮女（山崎七衛門妻）は信心深い人で、嘉永 4 年（1851）から全国を巡礼し、同 7 年には常陸の国に至り、とようらこひるめだいみょうじん
豊良浦蚕靈大明神縁記の一卷を拝受し、ここで千石舟の模型を造営し、帰路信仰深き信者の援護により漆原に帰着したと伝えられています。当初は山崎七衛門宅に祀られていたものを、七衛門の申し出により文久元年（1861）現在の位置、宇留司原神社の境内に移し祀られたものです。

本模型は近隣にも類例がなく、当時の養蚕農家情景を知る貴重な資料です。

